

取組名称	地域社会の環境問題を「かぐやロード」で解決！ ～サーキュラーエコノミー・カーボンニュートラル対応可能な次世代の防草・舗装材～			団体設立後の経過年数	85年目
応募取組主体名称	日本乾溜工業株式会社	活動地域	全国	応募取組の活動年数	16年目
取組主体の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 企業 / <input type="checkbox"/> 学校 / <input type="checkbox"/> NPO・任意団体 / <input type="checkbox"/> 自治体 / <input type="checkbox"/> 地域コミュニティ / <input type="checkbox"/> 個人 / <input type="checkbox"/> ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / <input type="checkbox"/> その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	<input checked="" type="checkbox"/> サステナブルデザイン賞 / <input type="checkbox"/> 子どもエンパワーメント賞 / <input type="checkbox"/> 環境と福祉賞 / <input type="checkbox"/> 環境地域ブランディング賞 / <input type="checkbox"/> 環境ひとつくり賞 / <input checked="" type="checkbox"/> 環境社会イノベーション賞 / <input checked="" type="checkbox"/> 地球と人への想いやり賞 <input checked="" type="checkbox"/> SDGsビジネス賞 / <input type="checkbox"/> EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨	<p>「環境にやさしく安全な社会の創造に向けてあくなき挑戦を続ける」という経営理念のもと、環境製品の開発に取り組んでいる中で、地域社会の課題である雑草対策問題や放置竹林問題の解決に繋がるものが出来ないかと思い、日本の原風景でもある土塀や三和土をモチーフに最新環境技術を取り入れたセメントを全く使用しない自然素材100%「現代版たたき土」を再現しました。「かぐやロード」は景観性に優れた雑草防止や土系舗装として活用できるほか、地域資源の活用、ヒートアイランド現象緩和、施工後のCO2吸収固定等の環境性能を活かした「循環型社会」形成による「0次予防」構築に期待ができます。</p>
実績の要旨	<p>放置竹林で悩まされている自治体（福岡・鹿児島・兵庫・静岡等）から伐採した竹をチップ化・乾燥・包装を行い、真砂土・にがり等の自然素材とプレミックスし製品化することで、誰にでも簡単に地域資源を活用した雑草防止対策や景観舗装が行えます。また、セメントを使用したくないエリア（国営公園、重要文化財など）でも多くの施工実績があり、近年ではサーキュラーエコノミー推進地域・ゼロカーボン宣言地域など「かぐやロード」の環境性能を活かした環境づくり・町づくりにも貢献しています。</p>

取組評価の要旨	環境への貢献	地域社会が悩まされている環境問題（雑草問題・放置竹林問題）を人と地球にやさしい方法で解決が出来る以外にも、かぐやロード1㎡施工当たり一般的なスギの木1本分と同等のCO2吸収効果によるカーボンニュートラル寄与や新たな緑化対策としても期待ができます。
	社会・経済への貢献	自然素材100%の環境配慮型製品のため、不要になっても土に戻すこと（産廃にならずリサイクル）が可能なため「循環型社会」形成による「0次予防」構築に貢献しています。
	地域資源の活用	地域社会のお困りごとである放置竹林問題解決のみならず、地域資源として県産品竹チップを使用した「かぐやロード」の製造・販売体制を確立しています。
	普及・汎用性	工場で徹底した粒度・配合比管理のもとプレミックスされた製品のため、誰でも簡単に身近な雑草防止対策が出来る以外にも、景観面に優れた土系舗装としても活用ができます。
	革新・ユニーク性	近年、景観面を重視して土系舗装材による雑草防止対策は、広く用いられているがセメント、化学品を一切使用せずに、自然素材のみによる色味の調整を可能とする舗装色相設計及び製造方法は「かぐやロード」最大の魅力。（特許番号：7513856号）
	継続性	社会課題を起点に地域社会・行政・地場企業との連携を強化することで、一過性ではなく継続的な取り組みを生み出しています。

展望の要旨	「環境にやさしく安全な社会の創造に向けてあくなき挑戦を続ける」という経営理念のもと、「温故創新」の観点で環境づくり、町づくり活動を展開していく。
-------	--